

若先生： KaVoは歯科医療において、新しい技術や斬新なアイデアをたえず模索し、実現していくイノベーションの担い手だと思います。たとえば、KaVo のイノベーションのひとつであるソニック（音波切削）は、歯肉出血するリスクを失くし、それまではアドバンスドの歯科医だけができた高度な治療を多くの歯科医に可能にしました。そのほかにも、タービンのチューブやパイプを上にあけて、診療中の「重たい」「邪魔になる」を解消するスイングアーム式のユニット、うがい水やタービン水にも過酸化水素水を使った水消毒システム、被爆線量も少なく驚くほど鮮明な画像のCT、フェイスボウなど、常にイノベーションに真摯に取り組む姿勢は、多くの歯科医が高く評価していると思いますね。

—最後に、歯科医の先生方にメッセージをお願いします。

高木院長： どんなに口で説明しても、言葉じゃうまく表現できない部分が多々あるので、まだ、KaVoを使ってきたことがない方は、まずは試しに一度、使ってみてください。国産ユニットを使い続けていたら知り得なかった、その圧倒的な性能と使い心地を実感するでしょう。

若先生： 勤務医で修行してこれから開業しよとする時は、KaVoを買うべきですね。自分が良い治療や患者さん達にすごくギフトを与えたいと思うならフラッグシップだと思います。私にとって、KaVoのユニットは「道具」を超えて、いっしょに仕事をしていてストレスを感じない、信頼できる優秀なパートナーです。毎朝、診療前にすべてのタービンの動作確認をしますが、僅かなモーター音の違いで不調がわかる。夜、一日の仕事が終わると、つい、ねぎらいの言葉をかけたくってしまう(笑)、相棒のような存在ですね。

Customer Information



高木歯科

神奈川県 小田原市 栄町2丁目8-37 長谷川建材ビル4階
TEL: 0465-23-4823
<http://メディモ.com/presses/90221>



院長 高木 一 先生

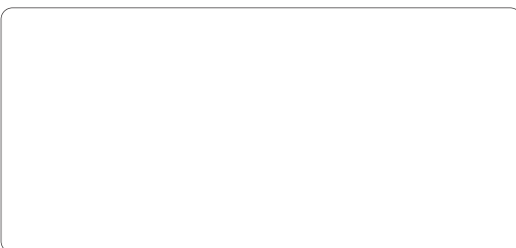
歯学博士
1968年 日本大学歯学部卒業
1971年 高木デンタルクリニックを開設
(東京都文京区)
1978年 医療法人社団高木歯科を開設
(神奈川県小田原市)
1979年 日本大学 松戸歯学部 歯牙解剖学講座にて
学位を取得



副院長 高木 立 先生

日本歯科大学卒業
ブレンベース社 公認
インプラントインストラクター
多くのインプラントメーカーにて講習会などの講師

Freunde(フロインデ)はドイツ語で友達を意味します。
KaVo Freundeであるユーザーの皆さまに長く弊社製品をご愛顧いただけますようサービス向上に努めています。



※掲載されている写真にはオプションが搭載されている場合があります。
※製品の仕様等は改良のため断りなく変更になる場合がございますのでご了承ください。

カボ デンタル システムズ ジャパン株式会社
KaVo. Dental Excellence.

東京本社 ● 〒140-0001 東京都品川区北品川 4-7-35 Tel:03-6866-7480 Fax:03-6866-7481
大阪本社 ● 〒541-0043 大阪市中央区高麗橋 4-5-2 Tel:06-7711-0450 Fax:06-7711-0451
札幌支店 ● Tel:011-716-4694 Fax:011-716-4692 ・仙台支店 ● Tel:022-772-7375 Fax:022-772-7376
名古屋支店 ● Tel:052-238-1146 Fax:052-238-1567 ・福岡支店 ● Tel:092-441-4516 Fax:092-472-1844

<http://www.kavo.jp>
VECPBF1507V1 EQU-052

親子二世代にわたるKaVoユーザー

JR小田原駅から徒歩3分の地に、1980年に開院した高木歯科医院(神奈川県小田原市)。現在は、高木一院長と息子さんの立先生が、一般診療から外科治療まで、幅広い診療にあたっています。親子二世代でKaVoのユニットを愛用している理由、その魅力についてうかがいました。



違いを実感! “やっぱりKaVo”

高木歯科

院長 高木 一先生 副院長 高木 立先生



KaVo. Dental Excellence.

「職人」としての欲求を満たす

—KaVoを使われるようになって、何年になりますか。

高木院長： もう、40年になりますね。当時は国産よりもずっと高額だったKaVoのタービンがどうしても欲しくて、なんとか入手しました。その圧倒的な切削力、安定感、回転数、トルクの高さ、どれをとっても国産とは比較にならないレベルで、以来、私はKaVoを愛用しつづけています。約十年前に、KaVoのユニットを2台導入しました。

—KaVoのユニットを実際に使用された感想をお聞かせください。

若先生： 国産ユニットと併用しているからこそ、KaVoのすごさがわかります。自分が思い描く切削ラインをしっかりとレースしてくれるタービン、トルクや回転数など、すべてのバランスがいい。国産だと、タービンの回転数を下げてゆっくりにすると、どうしてもトルク値も下がり、急に力が弱くなってしまふ。義歯を研磨しようとしても、トルクが熱に還元されてしまい、熱ばっかり出て回転に還元されないんですね。

KaVoは回転をゆっくりにしてもトルク値は下がらないので、しっかり削れる。低速から高速まで、どの速度域でもストレスなく使えるんです。通常なら、5倍速コントラアングルを使って研磨するところを、KaVoなら低速にしてタービンで研磨することもできる。支台歯形成も、その出来栄に満足できます。私は、国産で治療はしても、形成の仕上げは必ずKaVoでしています。



—歯科医の治療は、切削、研磨、形成など、ある意味、「職人」的な面がありますね。

若先生： ある意味ではなく、我々歯科医は実際、「職人」なんです。腕のいい職人なら、誰も自分の仕事道具や素材は、少しでも上質なものを使って、納得のいく作品をつくりたい。そういう「職人」としての欲求に応えてくれるのが、KaVoのユニットだと思います。そして、それがつまるところ、患者さん達へのギフトになるわけですよ。

タービンヘッドだけKaVoを使っている先生もいますが、私はそれはお勧めしません。KaVoのミッドウエストにKaVoのタービンヘッドがつくことで、あの究極のバランスが実現して、初めて本当のKaVoの治療ができると思います。

高木院長： 実際には歯科医の要望に応えるだけでなく、患者さんが求める「痛くない」「しみない」「安心」「安全」などの面においても、KaVoは群を抜いていますね。切削の際の十分な注水量によって実現するフェザータッチをはじめ、スプレーミストのふわっとしたやさやかさ、長時間にわたる治療でも患者さんが疲れにくいチェア、過酸化水素水を使った水消毒システムによる衛生管理の徹底など、患者さんの要望にもきめ細かく対応しています。



注水量とエアの絶妙なバランスで実現する治療に最適なスプレー

高木院長： 夜間診療の輪番当直などでは、よその歯科医院のユニットを使って診療しますが、非常に使いづらい(笑)。KaVoは切削の精度だけでなく、治療していて邪魔に感じるホースや排唾管の配置、チェアや照明の微妙な角度調節機能、ペダルの踏み心地など、ちょっとした目立たない地味なところにも、エルゴノミクス(人間工学)に基づいた使い勝手の良さが散りばめられているんだと、改めて実感しますね。

若先生： 私はインプラントのオペを、よその歯科医院ですることもありますが、与えられたユニットがKaVoだと、「よっしゃー!」とうれしくなります(笑)。特に外科治療においては、高性能のバキュームシステムが必須なんですけど、KaVoはバキュームや排唾管の吸引力も国産に比べて圧倒的で、それによって安全な治療ができます。どんなに古めかしい木造の歯科医院でも、KaVoのユニットが一台あれば、外科治療が可能なんです。

高いポテンシャルで診療の幅を広げる

—KaVoは高額なイメージを持たれていますが。

高木院長： たしかに高額ですが、KaVoはまずなによりポテンシャルが高い。一般診療から審美を含めた外科治療まで対応するので、医院の診療の幅を広げ、しかも長い歳月に渡って使えます。堅牢性、劣化の少なさ、安定性、スタイリッシュなデザイン、どれをとっても、もう十年使っているとは思えないですね。

若先生： 最近は、国産との価格差も狭まってきて、たとえばKaVoのミドルランクのユニットよりも高額な国産のフラッグシップモデルもあります。でも、ミドルランクでも、KaVoのほうが圧倒的にポテンシャルが高い。それは十年使ったら更に実感するでしょう。昨年購入したばかりの国産のユニットより、KaVoのほうがずっと使い心地がいいんです。

—歯科医療はまさに日進月歩で、素材もより審美性、耐久性の高いものへ、医療機器も常に進化していますね。

高木院長： その通りです。国家試験受験時の知識が、すぐに古いものになってしまう時代、我々、歯科医も「生涯学習」で、この進化についていかなければなりません。使う道具もそれに対応できるものが必要になってきますが、高額な医療機器を数年ごとに買い換えるのは無理がある。だからこそ、十年後も満足できるものを選ぶべきだと思います。KaVoはそのポテンシャルの高さで、あらゆる新しい治療に対応するので、長い歳月に渡って歯科医の心強いパートナーとなるでしょう。

